

# 千刈狸の呟き

十月の末に、秋田米の新品種「サキホコレ」が全国一斉発売となった。「秋田の米」を再び全国にアピールできるように、一年以上前から、この県にしては(!?)、かなり戦略的に事を運んで来たように思う。発売当日、我が家にそれぞれが購入してきた五キロ入りの米袋が、四つ並んでいたのが、それを物語っている。

春から同居の家族が増えて、卵や牛乳、米等の消費量が半端でなく増加した。美味しい物を食べさせたくて、食材を求めて購入し食卓に並べるのが、大変というより嬉しくて楽しい日課になってきた頃、「やっぱり、家の炊きたてのご飯は、格別に美味しいね。」という嬉しいコメントもあり、美味しい米探しにも拍車がかかっていた。

農産物の直売所やスーパーで珍しい銘柄のお米を見つけると購入し、しまいには、米の保存棚まで買い込んでいた。様々な銘柄の米を食べ比べながら、少しは米の事を調べてみたりした。結局、詳しい事はよく分からないままなのだが、「ネーミング」はとても重要だという結論に達した。食感や色ツヤ、研ぎ方、炊き方、保管方法等と同様、名前は米の命と言っていい。

「ゆめびりか」「はえぬき」「青天の霹靂」「ひとめぼれ」「つや姫」「あきたこまち」「ササニシキ」「コシヒカリ」…開発者、生産者の意気込みが感じられ、そういう名前なのだとは知って食べるのと知らずに食べるのでは、雲泥の差がある。

## ～ サキホコレ ～

### 月影の狸

そんな中「サキホコレ」が、ずば抜けているのは、その名が単純な名詞ではなく、唯一「命令形」の名前であるという事である。「サキホコレ！」なのだ。品種が増えている芋や枝豆や苺などにもないだろう。また、競馬の馬の名前や大相撲の力士などにも見当たらない。「輝」はいたが「輝け」はいない。言わば画期的なネーミングだったと言える。

「サキホコレ」とは、米自体へのメッセージであると同時に、米を作る人や食べる人へのエールでもあるように思う。食べた人が、元気になるような、米への感謝の気持ちが自然に湧いてくるような名前だ。

郷里への誇りや農家の心意気を内蔵し、米の国「秋田」が再生できるよう、熱い思いで開発が進み、約十二万株の中から選ばれた品種と聞く。名前を公募し選ばれた「サキホコレ」、名付け親のセンスには脱帽せざるを得ない。また米袋のデザインが、カタカナの文字だけで、イラストも写真もなく、上手いのか下手なのかよく分からない揮毫に凄いインパクトがある。米袋の文字だけのシールが貼られている市販のお弁当が美味しそうに見えてしまう。これまでの段取りのスマートさに、今までになかった秋田のやる気を感じてしまうと言えば大袈裟か。

実際に研いてみると、炊飯器のお釜の中に、綺麗な水際が出来、粒の揃った小さな小さな浜石が沈んでいるように見えた。食べてみると、「日本人の遺伝子に直接響くような王道を極めたうまさ」その通りだった。コロナとの長い付き合いの中、美味しい米に出会えてよかった。是非、ご賞味を！